

# 新春 須磨西六甲縦走路 旗振り山へ初歩き 2018.1.4.

高倉山・鉄拐山から旗振り山へ、そして一の谷を須磨浦へ降りる

By Mutsu Nakanishi



# 新春 須磨西六甲縦走路 旗振り山へ初歩き 2018.1.4.

高倉山・鉄拐山から旗振り山へ そして一の谷を須磨浦へ降りる

西六甲の端 須磨 高倉山から旗振り山へ  
~2018年初歩き

- 鉄拐山の大阪湾大展望
- 旗振り山から眺める明石海峡
- 古戦場 一の谷を下って、須磨浦へ
- 須磨寺





高倉台

須磨離宮

▲高倉山

須磨寺

網敷天満宮

西六甲全山縦走路

▲鉄拐山

旗振り山

▲

一の谷

安徳天皇内裏伝承地

JR須磨駅

▲鉢伏山

須磨浦公園

西六甲の端 須磨高倉山から旗振り山  
Walking MAP 2018.1.4.

- 鉄拐山の大坂湾大展望
- 旗振り山から眺める明石海峡
- 古戦場 一の谷を下って、須磨浦へ
- 須磨寺

須磨浦

海釣り公園

© 2017 ZENRIN

Google



家島群島 男鹿島

高倉山山腹遊歩道から眺める明石海峡から播磨灘 2018.1.4.  
今日は良く澄んでいて 久しぶりに家島群島の男鹿島が遠くみえている



縦走路へ高倉山山腹遊歩道から眺める明石海峡・明石大橋 2018.1.4.



縦走路へ登りきると 南に大阪湾が一望 眼下に神戸の街が広がり  
海を挟んで遠く生駒山から葛城・金網の山並みも見える 2018.1.4.



毎度なのですが、大阪湾の向こうに見える山並みの中に 二上山の二つこぶを探す  
今日はうっすら 見えているようだ



大阪湾の対岸 大阪・堺沿岸の街並・工場群の奥 金剛・葛城山の山並の北端に  
うっすら二上山の二つこぶが見え、ラッキーな気分も倍増 2018.1.4.



群生するウバメガシの林の中を縦走路・大阪湾が見晴らせる鉄拐山の頂上へ 2018.1.4.



群生するウバメガシの林の中を縦走路・大阪湾が見晴らせる鉄拐山の頂上へ 2018.1.4.



鉄拐山

← 高倉台 (六甲全山縦走線)

鉄拐山山頂 大阪湾全体のパノラマが見られる大展望所 2018.1.4.

東から南へ 六甲連山・神戸の街並み そして大阪湾に沿って広がる大阪から泉南・和歌山沿岸の大展望



大阪湾全体のパノラマが見られる大展望所 鉄拐山山頂 2018.1.4.

高倉台の住宅越し正面に六甲縦走路の山並みが見えている

左手手前から 横尾・梅尾山 その後ろ写真正面 手前から高取山・当の見える菊水山・摩耶山・神戸の市街地の後ろ東六甲



**鉄拐山山頂からの大展望 2018.1.4.**

東から南へ 六甲連山・神戸の街並み そして大阪湾に沿って広がる大阪から泉南・和歌山沿岸の大展望



**東側の展望:** 六甲の山並みを中央に北側には須磨名谷ニュータウンが広がり、南には神戸の市街地・大阪湾が広がっている。六甲全山縦走路全体を見渡せる絶好の展望台である。2018.1.4.



鉄拐山より、西六甲全山縦走路の山々を眺める 2018.1.4.

左手手前に高倉山 高倉台の住宅地を挟んで 横尾・母尾山の須磨アルプス  
その後ろ写真正面に高取山・塔の見える菊水山・摩耶山・神戸の市街地  
そして東六甲の山並みが立ち並ぶ



**北側の展望:** 須磨名谷ニュータウンが広がり、その奥に西神戸の象徴  
神出の雌岡山・雄岡山がどっしりと座っている 2018.1.4.

【動画:56sec】 2018年1月4日 大阪湾の大展望





鉄拐山から全山縦走路の西の端旗振り山へ向かう <1>

2018.1.4.



鉄拐山から全山縦走路の西の端旗振り山へ向かう <2>

2018.1.4



群生するウバメガシの林の中を縦走路 いつもの散策路 鉄拐山の下り 2018.1.4.



← →  
鉄伏山 0.3 km  
鉄扱山 0.7 km  
おらが山 1.5 km  
ロープウェイ駅 0.4 km

全山縦走路の西の端 旗振り山山頂  
六甲連山が明石海峡に落ちる西の端

正面に淡路島・明石海峡・明石大橋  
摂津/播磨の国境である 2018.1.4



新春のひざしに輝く須磨の海 淡路島・明石海峡 旗振り山 <1> 2018.1.4.



新春のひざしに輝く須磨の海 淡路島・明石海峡 旗振り山 <2> 2018.1.4.



ふと頭に浮かんで、久しぶりに 一の谷を降りて 須磨浦海岸へ出て 網敷天満宮・須磨寺を巡って帰る





旗振り山から一の谷を下って 須磨海岸へ  
網敷天満宮・須磨寺へ寄って帰る 2018.14

© 2017 ZENRIN  
海釣り公園

Google

須磨海づり公園



須磨 源平の古戦場 一の谷

旗振り山の南東側 林の中を崖けが続く谷筋の山腹のトラバース道 枝尾根を巻きながら下る。  
「一の谷の逆落とし」 こんな崖をよくもま降りたなあ…と思う谷筋である。 2018.1.4.



。須磨 源平の古戦場 一の谷

視界がぱっと開け、市街地が見えるが、震災で崩壊したところ 下は崖で谷にはおりれない  
崖に沿って 急な階段道を下って 尾根筋を南の須磨浦へ下ってゆく。。 2018.1.4.



須磨 源平の古戦場 一の谷

急な階段道を下ると また林の中 寄手墳・身方墳のすぐ横に出た。  
真っすぐ南の須磨浦へ下ってゆく。

2018.1.4.



須磨 源平の古戦場 一の谷

源平の戦の伝承地一の谷、かつて楠木正成が敵・味方両方の戦死者を弔うため、寄手墳・味方墳を作った古事に倣って、第二次世界大戦の戦没者慰霊のために作られたという。ここを下ると一の谷町。 悲劇の幼帝安德天皇の内裏の伝承地 2018.1.4.



林の中 一の谷の山道を抜けるとばっと正面に海が見える一の谷町の住宅地  
まだ、海はずっと下の高台 一の谷の出口 一の谷町の住宅地 眼下に海が見える 2018.1.4.  
住宅地の一角に大きな蘇鉄の見える一の谷公園があり、この地が悲劇の幼帝安徳天皇の内裏の伝承地

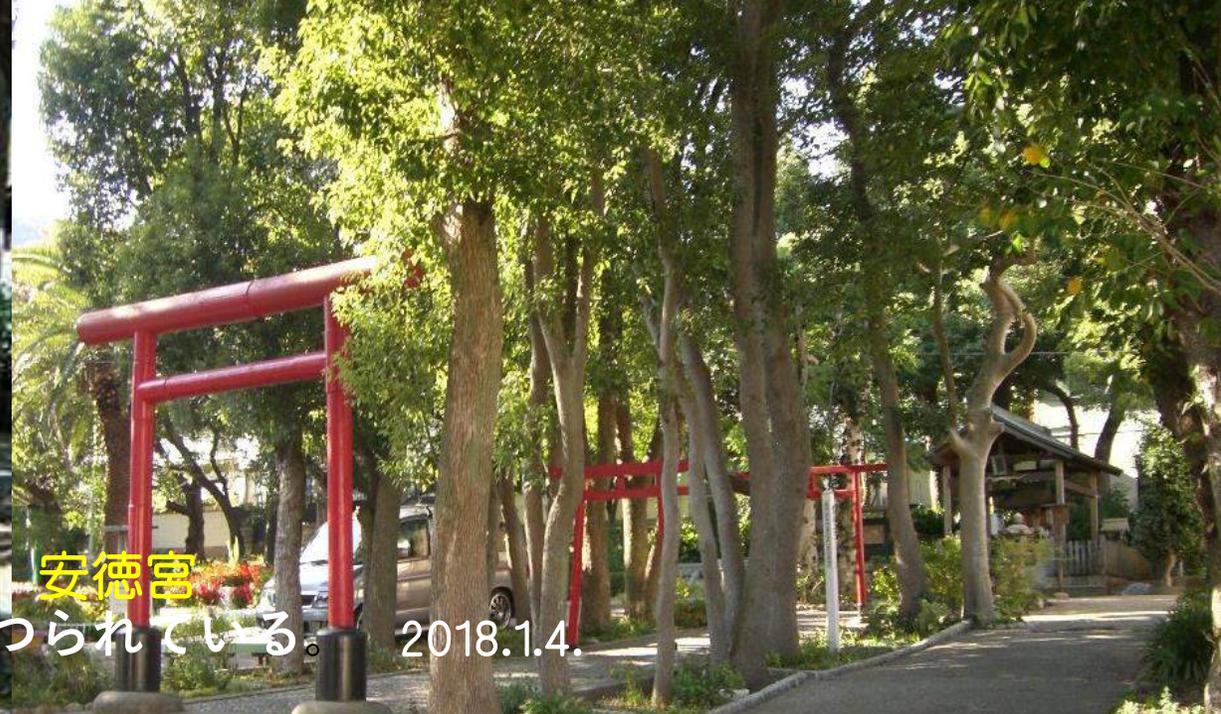


## 一の谷町にある安徳天皇内裏の伝承地の南側入口 2018.1.4.

後ろは今降ってきた旗振り山から鉄拐山の山並みが見える一の谷である  
まだ、標高50m以上ある高台の住宅地の中、一の谷公園として安徳天皇内裏の伝承地が整備されている。



一の谷公園 安徳天皇内裏の伝承地 2018.1.4.  
この地周辺にはかつて南洋植物園が作られた場所で、大きな蘇鉄がその名残である



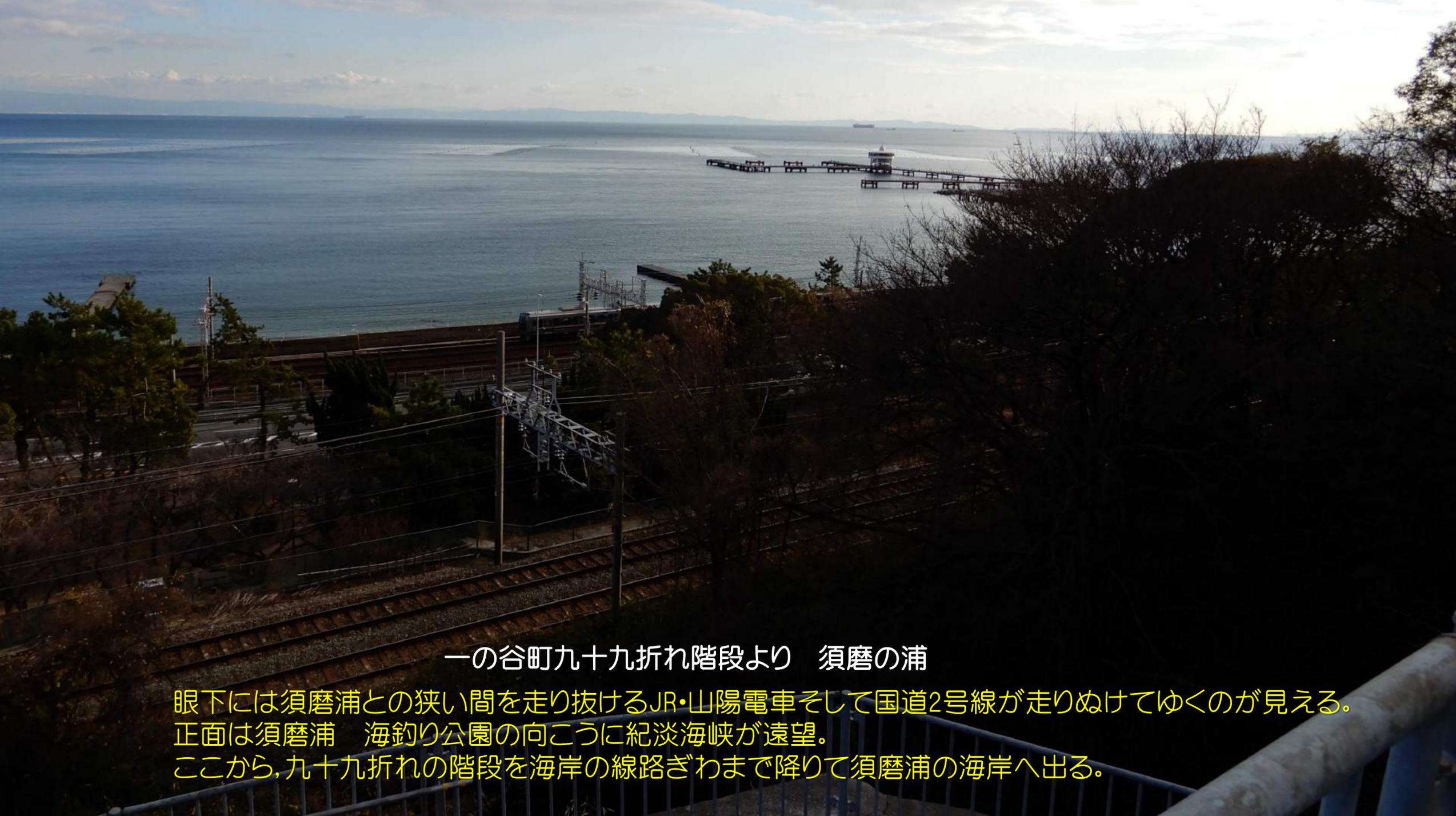
安徳天皇内裏の伝承地 一の谷公園 安徳宮  
安徳天皇の冥福を祈って安徳宮がまつられている。 2018.1.4.



一の谷公園からは 西に ロプウェイがかかる鉢伏山・その奥に旗振り山が見えている 2018.1.4.



一の谷町はまだ標高50m以上ある高台の住宅地 眼下には 須磨浦との狭い間を走り抜ける JR・山陽電車そして国道2号線が走りぬけてゆくのが見える 正面は須磨浦 海釣り公園の向こうは紀淡海峡 和歌山の山並みと海峡の島が遠くかすんでいる



## 一の谷町九十九折れ階段より 須磨の浦

眼下には須磨浦との狭い間を走り抜けるJR・山陽電車そして国道2号線が走りぬけてゆくのが見える。  
正面は須磨浦 海釣り公園の向こうに紀淡海峡が遠望。  
ここから、九十九折れの階段を海岸の線路ぎわまで降りて須磨浦の海岸へ出る。



一の谷町九十九折れ階段より 須磨の浦 2018. 1. 4. 須磨浦海岸



須磨浦海岸より紀淡海峡遠望

2018.1.4.

和歌山の山並みがかすむ右が紀淡海峡　そして　海峡に浮かぶ友が島が遠くみえている



須磨浦 一の谷町九十九折れ階段下の崖の斜面には 町の人たちが植えた水仙が満開に 2018.1.4.



須磨浦 一の谷町九十九折れ階段下の崖の斜面には水仙が満開に 2018.1.4.



須磨浦 一の谷町九十九折れ階段下の崖の斜面には水仙が満開に 2018.1年.



須磨浦海岸に出るともう午後4時前  
JRと山陽電車に挟まれた狭い海岸を国道2号線が抜けてゆく 2018.1.4.



一の谷を流れ下ってきた一の谷川



国道2号線を東へ 須磨駅周辺のR2 2018.1.4.



須磨の山並みの山裾 須磨寺の三重の塔 2018.1.4.夕



須磨の山並みの山裾 須磨寺の三重の塔 2018.1.4.夕



須磨寺の墓地を抜けて 北側の出口へ帰りを急ぐ 2018.1.4.夕



高倉台

須磨離宮

▲高倉山

須磨寺

網敷天満宮

西六甲全山縦走路

▲鉄拐山

旗振り山

▲

一の谷

安徳天皇内裏伝承地

JR須磨駅

▲鉢伏山

須磨浦公園

西六甲の端 須磨高倉山から旗振り山  
Walking MAP 2018.1.4.

- 鉄拐山の大阪湾大展望
- 旗振り山から眺める明石海峡
- 古戦場 一の谷を下って、須磨浦へ
- 須磨寺

須磨浦

海釣り公園

© 2017 ZENRIN

Google

# 新春 須磨西六甲縦走路 旗振り山へ初歩き 2018.1.4.

高倉山・鉄拐山から旗振り山へ、そして一の谷を須磨浦へ降りる

By Mutsu Nakanishi

西六甲の端 須磨 高倉山から旗振り山へ  
~2018年初歩き

- 鉄拐山の大阪湾大展望
- 旗振り山から眺める明石海峡
- 古戦場 一の谷を下って、須磨浦へ
- 須磨寺



《 おしまい 》

須磨の初歩き 澄みわたる空に眺めも最高

今年も元気に毎日を!!

2018.1.4. Mutsu Nakanishi